

# 1. 多元数理科学研究科

(1) 多元数理科学研究科の教育目的と特徴	21-2
(2) 「教育の水準」の分析	21-3
分析項目Ⅰ 教育活動の状況	21-4
分析項目Ⅱ 教育成果の状況	21-14
【参考】データ分析集 指標一覧	21-16

## (1) 多元数理科学研究科の教育目的と特徴

### 1. 教育の目的と基本方針

本研究科は、「数理科学における学術の理論及び応用を教授研究し、その深奥を究め、高度の専門性が求められる職業を担うための深い知識及び卓越した能力を培うことにより、文化の進展に寄与するとともに、数理科学における学術の研究者、高度の専門技術者、及び教授者を養成する」ことを目的としている。この目的を追求するために、基本方針「体系的かつ論理的な思考力を身につけ、確かな数理科学的能力と知識を基礎に、数理科学の新たな可能性に挑戦する人を育てる」によって教育活動を実施している。これは名古屋大学学術憲章の教育に関する基本目標「自発を重視する教育実践によって、論理的思考と想像力に富んだ勇気ある知識人を育てる」を数理科学の分野において実現しようとするものである。

### 2. 目標と方針

本研究科では、教育目標として「数理科学的能力」、「体系的・論理的思考力」を持った人材の育成を掲げ、以下の方針の下に、名古屋大学における数学教育の責任部局としてその目標達成を図っている。

(1) 基礎を重視する授業科目とともに幅広い視点と最先端の研究課題を包含する科目を充実させる。

(2) 学部から大学院までの一貫した数学教育を通して学生の自主性を育むための科目を充実させ、それを促すための研究・教育環境を整備するとともに学生のニーズを教育に適切にフィードバックすることに努める。

(3) 数学関係の学科・研究科を修了した学生だけでなく、幅広く数理科学を学ぶ意欲ある学生の受け入れに努め、学生に高い満足度を与える質の高い教育を維持し、オープンでフレキシブルな教育環境を充実させる。

### 3. 研究科の特徴

本研究科は実績ある数学研究の伝統の下、自発性を重視する教育実践によって、論理的思考と独創性に富んだ「勇気ある知識人」を育てることを教育理念として、広い視野と柔軟な思考力を備えた高度な専門人材の育成の役割を充実するとともに、豊かな学識・専門性とそれを柔軟に展開する学際性を有し、研究や事業を国際的に推進する実行力を備えた先導的な人材を育成する役割を果たしており、教育においては以下の特徴や特色を有している。

研究科として理学部数理学科の学部教育と一貫した大学院教育の体制を取り、学年に縛られない柔軟な学習を可能にしている。また、学部初年次の全学教育ならびに学部入試に関

## 名古屋大学多元数理科学研究科

して、名古屋大学における数学の責任部局として取り組んでいる。さらに、自立した研究を展開するために必要な企画運営能力を育成するための取組などにおける実績を生かし、国際的水準を踏まえた教育改革を進め、グローバルに活躍できる理学系人材を育成する学部・大学院教育を目指して不断の改善・充実を図っている。

基礎的な数理科学的能力を身につけることを目標とした本研究科の教育内容は、多様な背景をもつ学部卒業生に対応できる教育課程となっている。一方で、体系的・論理的思考力と幅広い視野や高度な専門知識を併せ持つ人材の育成は、IT 業界、金融・保険業界、高校教員を始めとする多様な進路に優れた人材を供給することにつながっている。

### 4. 学生受入の状況

本研究科の入学定員は、博士前期課程 47 名、博士後期課程 30 名である。前期課程では、年により多少の変動はあるが、近年は本学以外からの入学者が半数以上を占めることが多い。

## (2) 「教育の水準」の分析

### 分析項目Ⅰ 教育活動の状況

#### <必須記載項目1 学位授与方針>

##### 【基本的な記載事項】

- ・ 公表された学位授与方針（別添資料 4521-i1-1）

##### 【第3期中期目標期間に係る特記事項】

（特になし）

#### <必須記載項目2 教育課程方針>

##### 【基本的な記載事項】

- ・ 公表された教育課程方針（別添資料 4521-i2-1）

##### 【第3期中期目標期間に係る特記事項】

（特になし）

#### <必須記載項目3 教育課程の編成、授業科目の内容>

##### 【基本的な記載事項】

- ・ 体系性が確認できる資料  
（別添資料 4521-i3-1～3）
- ・ 自己点検・評価において体系性や水準に関する検証状況が確認できる資料  
（別添資料 4521-i3-4）
- ・ 研究指導、学位論文（特定課題研究の成果を含む。）指導体制が確認できる資料（別添資料 4521-i3-5～6）

##### 【第3期中期目標期間に係る特記事項】

○ 学部から大学院までの一貫した教育課程として、学年の枠を越える「レベル」を設定し、特に「レベル2」は学部4年でも大学院前期課程でも共通に履修できるものとしている。学部講義に当たる部分にはコアカリキュラムおよびコースツリーが明確となっており、大学院教育で必要な知識が明らかにされている。[3.1]

○ 学部と大学院の教育をつなげる目的で、学部4年生での履修単位を4単位まで大学院の単位に振り変える制度を導入している。 [3.1]

○ 通常講義によって数学・数理科学の基礎を身につけるようにするとともに、幅広く多様な研究の教授とキャリア教育を行うために、非常勤講師による集中講義を開講している。他大学の研究者による最先端の研究紹介の他に、IT・金融分野の企業人を講師とした応用数理、保険数理、年金数理などの講義により、応用分野を志向する学生への学修機会を提供している。2016, 2017, 2018, 2019年度では、通常講義（概論，特論）はそれぞれ25, 23, 22, 22科目開講され、これ以外に集中講義がそれぞれ16, 17, 17, 16科目開講された。 [3.2]

○ 前期課程入学者の学習履歴の多様性に対応するため、前期課程入学時に「予備テスト」を実施することにより教育プログラムを受けるための最低限の数学リテラシーが準備されていることを確認するとともに、その不合格者を対象に基礎演習クラスによる補習体制を整備している。また、非数理系学科等からの進学者の学習の便宜を図るため、講義の修了要件12単位のうち4単位までを数理学科対象講義の履修によって取得することを認めている。 [3.4]

#### <必須記載項目4 授業形態、学習指導法>

##### 【基本的な記載事項】

- ・ 1年間の授業を行う期間が確認できる資料  
(別添資料 4521-i4-1)
- ・ シラバスの全件、全項目が確認できる資料、学生便覧等関係資料  
(別添資料 4521-i4-2～3)
- ・ 協定等に基づく留学期間別日本人留学生数  
(別添資料 4521-i4-4)
- ・ インターンシップの実施状況が確認できる資料  
(別添資料 4521-i4-5)
- ・ 指標番号5、9～10（データ分析集）

##### 【第3期中期目標期間に係る特記事項】

○ 講究科目「少人数クラス」では、教員と学生の双方向の講義形式を取り入れ、各専門分

## 名古屋大学多元数理科学研究科 教育活動の状況

野における基礎の習得から始めて、高い専門性とライティングおよびプレゼンテーション能力の育成を図り、合わせて修士論文指導を行っている。[4.1]

○ 博士前期課程では、学生の希望に応じて複数アドバイザーによる指導も可能にしている。また、他の少人数クラスに出席し、担当教員がその少人数クラスの内容を習得したと認めた場合に単位の修得を可能にしている。[4.1]

○ 博士後期課程では、複数アドバイザー制による研究指導が中心であり、1名の責任アドバイザーが学位論文指導に責任を負う。また、学生が主体となって自発的に研究内容を企画・運営する「学生プロジェクト」の募集などにより、自主的な研究活動を奨励するとともに、学位論文作成と問題発見・企画運営・問題解決の能力の開発を支援している。[4.1]

○ 博士前期課程では、春学期終了時に少人数クラス内容報告（中間まとめ）を提出させるとともに、1年終了時に「1年次学習報告会」を修士論文発表会を模した形式で開催し学習報告の提出およびプレゼンテーションを義務づけている。各学生には複数教員からのコメントを文書として手渡し、修士論文作成への指導としている。[4.7]

○ 博士後期課程では、毎年度末に「後期課程研究内容報告会」を開催し、後期課程学生に学習・研究の進行状況を報告させ、確認・助言を行っている。[4.7]

○ 優秀な修士論文数編を選定し、「多元数理論文賞」を授与している。[4.7]

### <必須記載項目5 履修指導、支援>

#### 【基本的な記載事項】

- ・ 履修指導の実施状況が確認できる資料（別添資料 4521-i5-1）
- ・ 学習相談の実施状況が確認できる資料（別添資料 4521-i5-2）
- ・ 社会的・職業的自立を図るために必要な能力を培う取組が確認できる資料（別添資料 4521-i5-3）
- ・ 履修上特別な支援を要する学生等に対する学習支援の状況が確認できる資料（別添資料 4521-i5-4）

#### 【第3期中期目標期間に係る特記事項】

○ 「カフェ・ダビッド」と呼ばれるオープンスペースを用いた合同オフィスアワーを実施

## 名古屋大学多元数理科学研究科 教育活動の状況

している。また、女子学生への支援として女性教員による「レディースランチ」を開催している。[5.1]

○ 学生の主体的な学習・研究を奨励するものとして「学生プロジェクト」支援制度を設け、学生の企画を募集して毎年 10 件程度を採択して研究費（1 件当たり 50 万円を上限）を補助し、自主的に企画・運営させている。

学生プロジェクト	採択件数	参加学生数					計
		前期課程 1 年	前期課程 2 年	後期課程 1 年	後期課程 2 年	後期課程 3 年	
2016 年度	8 件	4 名	4 名	4 名	3 名	4 名	19 名
2017 年度	12 件	6 名	7 名	6 名	5 名	3 名	27 名
2018 年度	9 件	4 名	7 名	10 名	2 名	2 名	25 名
2019 年度	11 件	2 名	5 名	13 名	7 名	3 名	30 名

さらに、学生が国内の研究集会などに参加するための旅費（2019 年度は 1 人当たり最大 8 万円まで）を研究科として補助している。[5.1]

- 成績不振者に対して専攻主任，教務委員長などによる面談を実施している。[5.1]
- 文書作成の技能を習得させる目的で LaTeX 講習会を開催するとともに，論文執筆における適切な引用についての講習会（修士論文ガイダンス）をしている。[5.1]

○ 大学院生のキャリアパス，就職支援として，名古屋大学数理科学同窓会の協力を仰ぎ OB, OG を招いて「企業研究セミナー・ミニ同窓会」を年 2 回開催し，以下の通り，多くの企業からの参加を得ている。

	第 1 回企業研究セミナー・ミニ同窓会		第 2 回企業研究セミナー・ミニ同窓会	
	参加企業数	参加学生数	参加企業数	参加学生数
2016 年度	10 社	18 名	35 社	22 名
2017 年度	14 社	32 名	32 社	33 名
2018 年度	17 社	36 名	38 社	25 名
2019 年度	17 社	27 名	37 社	16 名

また、「教員採用試験合格をめざして」と題して，最近教員に採用された卒業生を講師として具体的，実践的な講義を実施し，教員志望学生への支援を充実させている。[5.3]

○ 講演会「卒業生講演会—考えよう数理科学のキャリアパス—」を 2017 年度から年 1 回ずつ開催し，大学院生・学部生に博士後期課程進学後のキャリアパスについて学び，考え

## 名古屋大学多元数理科学研究科 教育活動の状況

る機会としている。 [5.3]

	実施日	講演者（研究者）	講演者（企業）
2017年度	11月11日（水）	木村杏子氏 （静岡大学理学部）	平子裕記氏（アイシン・コムクルーズ株式会社）
2018年度	10月10日（水）	見正秀彦氏（東京電機大学システムデザイン工学部）	遠藤淳平氏（アイシン・コムクルーズ株式会社）
2019年度	6月13日（木）	野原雄一氏 （明治大学理工学部）	北野朋美氏（トヨタファイナンス株式会社）

○ 「数学協働プログラム」（幹事機関：統計数理研究所）とその後継である「数学アドバンスイノベーションプラットフォーム」（AIMaP）（幹事機関：九州大学マス・フォア・インダストリ研究所）に協力機関として参画し，数理科学同窓会の協力も得て，数学を使って解決することが期待される企業からの課題提言に基づき学生が中心となってそれに取り組み解決方法を提示することを目的としたスタディーグループを開催している。例えば，2018年度は，量子コンピュータの活用（日本アイ・ビー・エム）3回，データサイエンティスト（日本アイ・ビー・エム）4回，数学の一般社会での活用（スローガン株式会社），機械加工の挑戦と数理科学（ナガセインテグレックス，ナジック・アイ・サポート）4回，地域配送ルート提示システムの構築（アリッツ株式会社）5回を開催し，2019年度は，数学の一般社会での活用（スローガン株式会社）3回，データサイエンティスト講座（日本アイ・ビー・エム）4回，地域配送ルート提示システムの構築（アリッツ株式会社）4回，データ分析を活用したサービスの創出（NECソリューションイノベータ）4回を開催した。  
[5.3]

○ 大学1年次の微分積分学・線形代数学，2年次の複素関数論，理学部数学科2，3年次の講義・演習科目のティーチングアシスタントとして学生を雇用している。これによって，学生が経済的な支援を受けられるだけでなく，基本事項を新たな視点からの再認識できるなど自らの学習・研究に役立てることができ，さらに，自らが指導にあたる際の貴重な経験を積むことができるようにしている。

採用年度/TA種別 （採用者は延べ人数）	TA（全学科目）		TA（数理学科科目）	
	春学期	秋学期	春学期	秋学期
2016年度	32名	25名	16名	16名
2017年度	33名	26名	16名	16名
2018年度	36名	27名	17名	18名
2019年度	36名	27名	18名	19名



## 名古屋大学多元数理科学研究科 教育活動の状況

○ 日本学術振興会特別研究員申請に向けた説明会、相談会を開催するとともに、教員が提出前の申請書に対して内容や書き方についてアドバイスするレビューシステムを導入している。2016年度～2019年度の採択者数（2017年度～2020年度採用分）は次のようになっている。

採択年度/種別	DC1	DC2	PD
2016年度	1名	0名	2名
2017年度	3名	3名	2名
2018年度	4名	4名	3名
2019年度	2名	4名	2名

○ 大学等の教育機関や各種研究員への面接に進んだ者を対象に、希望に応じて面接練習を実施している。2016年度～2019年度は、26名に対して延べ30回の面接練習を実施し、13名が採用ないし採択された。

○ 学位取得者のキャリアパス支援の一環として、理学部1年生の数学演習を担当する教務助教4名（2019年度からは3名）を採用し、助教1名の統括のもとにチームを組んできめ細かい演習を実施している。[5.3]

### <必須記載項目6 成績評価>

#### 【基本的な記載事項】

- ・ 成績評価基準（別添資料 4521-i6-1）
- ・ 成績評価の分布表（別添資料 4521-i6-2）
- ・ 学生からの成績評価に関する申立ての手続きや学生への周知等が明示されている資料（別添資料 4521-i6-3）

#### 【第3期中期目標期間に係る特記事項】

（特になし）

### <必須記載項目7 卒業（修了）判定>

#### 【基本的な記載事項】

- ・ 卒業又は修了の要件を定めた規定（別添資料 4521-i7-1）

## 名古屋大学多元数理科学研究科 教育活動の状況

- ・ 卒業又は修了判定に関する教授会等の審議及び学長など組織的な関わり方を含めて卒業（修了）判定の手順が確認できる資料（別添資料 4521-i7-2）
- ・ 学位論文の審査に係る手続き及び評価の基準（別添資料 4521-i7-3）
- ・ 修了判定に関する教授会等の審議及び学長など組織的な関わり方が確認できる資料（別添資料 4521-i7-4）
- ・ 学位論文の審査体制、審査員の選考方法が確認できる資料（別添資料 4521-i7-5）

### 【第3期中期目標期間に係る特記事項】

○ 修士論文は指導教員以外の複数教員による閲読に基づいて予備審査を行った上で、修士論文発表会を行い、修士論文の合否判定を行っている。また、閲読結果を学生にフィードバックしている。さらに、優れた修士論文に対し、多元数理論文賞を授与している。[7.2]

## <必須記載項目8 学生の受入>

### 【基本的な記載事項】

- ・ 学生受入方針が確認できる資料（別添資料 4521-i8-1）
- ・ 入学者選抜確定志願状況における志願倍率（文部科学省公表）
- ・ 入学定員充足率（別添資料 4521-i8-2）
- ・ 指標番号1～3、6～7（データ分析集）

### 【第3期中期目標期間に係る特記事項】

○ 前期課程、後期課程ともに入学試験を夏、冬の2回実施するなど、学生の確保に努めている。5月から6月にかけて大学院入試説明会を名古屋、京都、東京、岡山（2018年度まで）で開催し、研究科の教育、研究、支援体制、特色についての広報を行っている。2016年度～2019年度の参加者数は136名、105名、90名、115名であった。また、11月ないし12月には入進学相談会を開催し、次年度の入試を受験する前期課程1年次学生の相談も受け付ける機会を設けている。さらに、教員の研究内容、学生へのメッセージなど（教員1人当たり見開き2ページ）を載せた教員紹介冊子を作成し、ウェブページに掲載するとともに入試説明会などで配布している。夏の前期課程入試の合格者にはプレアドバイザーと呼ばれる教員をつけ、入学前に準備のためのアドバイスをを行っている。[8.1]

## <選択記載項目A 教育の国際性>

## 名古屋大学多元数理科学研究科 教育活動の状況

### 【基本的な記載事項】

- ・ 協定等に基づく留学期間別日本人留学生数  
(別添資料 4521-i4-3) (再掲)
- ・ 指標番号 3、5 (データ分析集)

### 【第3期中期目標期間に係る特記事項】

○ 大学院通常講義のうち数理科学展望2科目と特論のうちの数科目を英語講義として実施するとともに、非常勤講師による集中講義の一部も英語講義として実施している。2016年度は特論3科目を、2017年度は特論3科目を、2018年度は特論3科目を、2019年度は特論3科目と集中講義3科目を英語講義として実施した。[A.1]

○ 学生が主体となり自発的に研究内容を企画して運営する「学生プロジェクト」によって国際研究集会などへの大学院生の参加や、学術交流協定締結先との研究交流を支援している。2018年度には、ランス大学(フランス)数学研究所との間で締結した学術交流協定に基づいて、ランス大学博士課程の1名が本研究科に、本研究科博士課程の3名(博士前期2名、博士後期課程1名)がランス大学に滞在し、それぞれの研究科に所属する教員から研究指導を受けた。[A.1]

○ 世界展開力強化事業に採択された「ASEANと日本を繋ぐ「グローバル・ソフトインフラ基礎人材」育成プログラム」の一環として、また、締結した学生交流覚書に基づいて、ヤンゴン大学(ミャンマー)からの学生を受け入れての短期及び長期の教育プログラム、および研究科教員・後期課程学生を派遣しての集中講義・演習を実施している。[A.1]

	受入学生数	派遣教員数	派遣学生数
2016年度	0名	2名	0名
2017年度	5名	2名	1名
2018年度	2名	2名	1名
2019年度	2名	2名	1名

### <選択記載項目B 地域連携による教育活動>

#### 【基本的な記載事項】

(特になし)

#### 【第3期中期目標期間に係る特記事項】

## 名古屋大学多元数理科学研究科 教育活動の状況

○ 本研究科では毎年高校生および高校教員を対象とする公開講座として、夏期の集中講義「数学アゴラ」と継続講義「秋の公開講座」を実施し、愛知県教育委員会主催のあいち理数教育推進事業「知の探究講座」として2つの公開講座を合体したものを提供している。

（「知の探究講座」は数学に興味をもつ高校生が夏期集中講座と秋期継続講座を通して受講し、最後にその成果を発表するもので、受講者には高校の単位が認定される。）また、地域連絡会議を毎年2回開催し、公開講座や高大連携などについて高校の現場からの意見を聞く機会を設けている。さらに、NHK 名古屋文化センターでの講座の開催、高校生への出張講義（一部スーパーサイエンスハイスクール事業と連携）、女子中高生を対象とする講演などを行うとともに、名古屋大学が主催する「日本数学コンクール」における問題作成に協力している。[B.1]

### <選択記載項目C 教育の質の保証・向上>

#### 【基本的な記載事項】

（特になし）

#### 【第3期中期目標期間に係る特記事項】

○ 毎年、学部・全学教育を含めた全担当科目について担当教員が講義結果報告書を作成し、教育に対する自己評価を行っている。さらに学部教育については、FDおよび情報交換のために担当学年ごとに講義演習担当者連絡会議を構成し、おもにメールによって講義の進度、学生の出席状況等について情報交換を行っている。また、理学部数理学科で開講している3年生以下対象のすべての授業科目（演習を含む主要科目は中間、期末の2回）と4年大学院共通講義のうちの主要3科目についてアンケートを実施している。講義担当者だけではなく、教務委員会がその結果をレビューし、必要に応じて講義のレベル、方法の修正、次年度以降における講義プランなどへの提言をしている。また、ウェブで公開されている講義結果報告書では、講義担当者がアンケートで見出された問題点への対応などについても報告をしている。[C.1]

### <選択記載項目D リカレント教育の推進>

#### 【基本的な記載事項】

- ・ リカレント教育の推進に寄与するプログラムが公開されている刊行物、ウェブサイト等の該当箇所（別添資料 4521-iD-1）
- ・ 指標番号2、4（データ分析集）

【第3期中期目標期間に係る特記事項】

- 本研究科では毎年高校生および高校教員を対象とする公開講座として、夏期の集中講義「数学アゴラ」と継続講義「秋の公開講座」を実施している。また、NHK 名古屋文化センターでの講座を開催している。[D.1]

## 分析項目Ⅱ 教育成果の状況

### <必須記載項目1 卒業（修了）率、資格取得等>

#### 【基本的な記載事項】

- ・ 標準修業年限内卒業（修了）率（別添資料 4521-ii1-1）
- ・ 「標準修業年限×1.5」年内卒業（修了）率（別添資料 4521-ii1-2）
- ・ 博士の学位授与数（課程博士のみ）（入力データ集）
- ・ 指標番号 14～20（データ分析集）

#### 【第3期中期目標期間に係る特記事項】

○ 高校教員の専修免許（数学）を2016年度16名、2017年度8名、2018年度9名、2019年度8名が取得している。[1.2]

○ 大学院学生の発表論文数（査読無しを含む）、講演回数（国内国外を合わせて）は以下のようになっており（数値は年報資料用に学生から報告されたもののみを計数している）、増加傾向にある。[1.2]

	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度
論文発表数	40	37	52	68
講演回数	80	90	92	128

○ 本研究科の修了生が修士論文に基づく英語論文で、International Conference on Artificial Intelligence and Soft Computing (2018)において最優秀論文賞を受賞した。本研究科の博士後期課程学生が24th International Symposium on Artificial Life and Robotics (2019)においてYoung Author Awardを受賞した。[1.2]

### <必須記載項目2 就職、進学>

#### 【基本的な記載事項】

- ・ 指標番号 21～24（データ分析集）

#### 【第3期中期目標期間に係る特記事項】

○ 博士前期課程修了者（2016年度～2019年度）は、在学中に習得した能力を十分に発揮できる業種の企業（約56%）、公務員または学校教員（約7%）として就職し、あるいは博士後期課程に進んでいる（約27%）。後期課程修了・単位取得退学者（2016年度～2019年

## 名古屋大学多元数理科学研究科 教育成果の状況

度)の進路は、国内外大学教員、国内外研究機関研究員(約59%)、民間企業(約10%)、中高校教員(約0%)、研究生(約6%)であり、教育・研究機関、民間企業など様々な分野に進み、数理科学の専門家としての能力を発揮している。[2.1]

### <選択記載項目A 卒業(修了)時の学生からの意見聴取>

#### 【基本的な記載事項】

- ・ 学生からの意見聴取の概要及びその結果が確認できる資料  
(別添資料 4521-iiA-1)

#### 【第3期中期目標期間に係る特記事項】

(特になし)

### <選択記載項目B 卒業(修了)生からの意見聴取>

#### 【基本的な記載事項】

- ・ 卒業(修了)後、一定年限を経過した卒業(修了)生についての意見聴取の概要及びその結果が確認できる資料(別添資料 4521-iiB-1)

#### 【第3期中期目標期間に係る特記事項】

(特になし)

### <選択記載項目C 就職先等からの意見聴取>

#### 【基本的な記載事項】

- ・ 就職先や進学先等の関係者への意見聴取の概要及びその結果が確認できる資料  
(別添資料 4521-iiC-1)

#### 【第3期中期目標期間に係る特記事項】

(特になし)

【参考】データ分析集 指標一覧

区分	指標 番号	データ・指標	指標の計算式
1. 学生入学・在籍 状況データ	1	女性学生の割合	女性学生数／学生数
	2	社会人学生の割合	社会人学生数／学生数
	3	留学生の割合	留学生数／学生数
	4	正規課程学生に対する 科目等履修生等の比率	科目等履修生等数／学生数
	5	海外派遣率	海外派遣学生数／学生数
	6	受験者倍率	受験者数／募集人員
	7	入学定員充足率	入学者数／入学定員
	8	学部生に対する大学院生の比率	大学院生総数／学部学生総数
2. 教職員データ	9	専任教員あたりの学生数	学生数／専任教員数
	10	専任教員に占める女性専任教員の割合	女性専任教員数／専任教員数
	11	本務教員あたりの研究員数	研究員数／本務教員数
	12	本務教員総数あたり職員総数	職員総数／本務教員総数
	13	本務教員総数あたり職員総数 (常勤、常勤以外別)	職員総数(常勤)／本務教員総数 職員総数(常勤以外)／本務教員総数
3. 進級・卒業 データ	14	留年率	留年者数／学生数
	15	退学率	退学者・除籍者数／学生数
	16	休学率	休学者数／学生数
	17	卒業・修了者のうち標準修業年限内卒業・修了率	標準修業年限内での卒業・修了者数／卒業・修了者数
	18	卒業・修了者のうち標準修業年限×1.5年以内での卒業・修了率	標準修業年限×1.5年以内での卒業・修了者数／卒業・修了者数
	19	受験者数に対する資格取得率	合格者数／受験者数
	20	卒業・修了者数に対する資格取得率	合格者数／卒業・修了者数
	21	進学率	進学者数／卒業・修了者数
	22	卒業・修了者に占める就職者の割合	就職者数／卒業・修了者数
4. 卒業後の進路 データ	23	職業別就職率	職業区分別就職者数／就職者数合計
	24	産業別就職率	産業区分別就職者数／就職者数合計

※ 一部の指標（指標番号8、12～13）については、国立大学全体の指標のため、学部・研究科等ごとの現況調査表の指標には活用しません。